

おむねいいち
大村詠一さんは、エアロビックを愛する町民です。全国で活動をしながらも、大津町に住み続けています。

その大村さんに娘が生まれてもうすぐ1年になるうとしていきます。昨年11月に誕生した長女玲緒ちゃん。詠一さんは、立派なお父さんになりました。

母である利恵さんの影響で4歳から始めたエアロビック。今では、詠一さんは日本エアロビック界の第一人者になり、彼を語る上では欠かせないものになりました。努力を重ね続け、2002、03年には、ユース部門で世界一になり、2008年には全日本選手権一般の部で男子シングル優勝。これから、ますます期待がかかります。

そして、詠一さんには自らが「個性」と話す病気を持っています。「1型糖尿病」。すい臓のβ細胞が破壊され、インスリンが分泌されなくなる病気です。1型糖尿病は、生活習慣の影響による2型糖尿病と違って、自己免疫性疾患です。

8歳のときに突然発症した詠一さんは、悩み、苦しみました。しかし、学校で自分の病気を打ち明けたことで、周りの友達に、理解し、協力してくれたのです。個性を知ってもらうことで多くの人と知り合い、つながりました。

「この個性があったから、今の僕がある」と話す詠一さん。結婚して、娘が生まれた思いを聞きました。

です。「一番支援した方がいいときに支援できるような親になりたいです。自分の何かを犠牲にすれば支援できるのなら、そうしたいと思っています」と話す詠一さんの顔は父の顔でした。家族ができることで夢を捨ててしまうわけではありません。夢への進み方が変わり、家族の人数だけ、夢はもっともっと大きくなっていきます。

親になって親に感謝

詠一さんは、両親に感謝の気持ちを伝えたいと話します。「子どもが生まれることの素晴らしさを娘の出産で初めて感じました。病気を隠さず生きてきて、エアロビックで経済的にも迷惑をかけたと思っています。だから、親にはとても感謝しています」。結婚して実家にみんなで住んではいますが、家族が反対していたら、自分たちはどうすれば良かったか、分からないと話します。

エアロビックを続けていたから、糖尿病になったからこそその出会いがありました。人との出会いで、いろんな考え方を知りました。そして、家族が増えたおかげで違う出会いが生まれました。「結婚や出産で、すごく充実した2010年、2011年を過ごすことができました」と話す二人からは、玲緒ちゃんに対する愛情が満ちあふれています。

出会い、そして新しい命

妻のあずさんと知り合ったのは、大学生のときでした。あずさんは、大卒卒業後、フィリピンに行き、日本語を教えるボランティアをしたかったのですが、結婚と出産で、その夢はしばらくお休みすることになりました。しかし、彼女はそれが良かったと話します。「もしフィリピンに行っていたら、（詠一さんと）結婚していなかったかもしれない。でも、娘はかわいいし、今が幸せです。結婚して良かったです」と笑顔を見せます。

二人は、子どもを授かったと知り、不安になったこともありましたが、自分たちで子どもを育てていくと決めて、二人で努力を重ねました。

詠一さんは、エアロビックの他に、同じ病気を持つ子どもたちのために、全国で講演活動を行っています。しかし、子どもが生まれるとそれできなくなるかもしれない。「エアロビックの普及も兼ねているし、病気になるたからこそ感じたことは、他の人には話せないことです。それを伝えたいという思いは強かったです」と当時の気持ちを話します。でも、どうかしようと思いい、必死に行動すると、どうにかなるものです。最近では、仕事も増えてきて、執筆の依頼なども来ているそうです。

家族の時間を作ろう

詠一さん一家は、9人家族。なかなか二人の時間を作ることができません。「私は、娘中心の生活なので、朝も夜も早いんですが、詠一さんは練習を夜の10時までして、それから他の仕事をしているの、時間が合わないです」と話すあずさん。仕事をしているとお互いの生活のリズムを合わせることは難しいですが、それでもできることをやるのが大切です。「詠一さんは、子育てに協力してくれていると思ってくれます。玲緒と遊んで、お風呂に入れてくれるので、助かっています。お互いが分担してやっている感じですね」。その家族の理想形は家族でそれぞれです。

夢へのアプローチ

結婚して子どもができることで、自分の夢へのアプローチは変わります。「これまでは単純に結果を残すだけで良かったのですが、家族のために時間を作ることも、家族を幸せにすることも、自分の夢になりました」と詠一さんは夢が増えたことを喜びます。

そして、娘にはやりたいことをやらせてあげたいと話す詠一さんとあずさん。その子にとって大事な瞬間を大切にしていることが、子どものため

結婚したから、
今の幸せに出会うことができました

パパ、ママ
大好き♡

家族ができた喜び、
あらためて両親に感謝したいです

大村 詠一さん
あずさん
玲緒ちゃん (矢護川)

Eiichi Ohmura & Azusa & Tamao



1. 講演依頼も多い。壇上に立たずに、観客と同じ高さで話すのが大村詠一流講演だ/
2. 妹2人ときょうだいで競技に参加する。3人の息はぴったり。トリオでも2回、日本一に輝いている